

病態生化学概論

科目到達目標:実験病理学および炎症学の基礎を理解する。

科目責任者(所属): 岡田 太 (実験病理学)

連絡先:実験病理学分野に伝言してください

回数	月日	時限	講義室	授業方法	授業内容	担当者	講座・ 分野・診療科	到達目標	授業のキーワード
1	6/9(火)	2	322	・対面授業	細胞傷害、組織傷害	尾崎 充彦	実験病理学	細胞傷害、組織傷害を理解する。	病因、変性、壊死、アポトーシス、萎縮、代謝異常
2	6/16(火)	2	322	・対面授業	組織修復とその異常(1)	尾崎 充彦	実験病理学	細胞増殖や修復過程における組織変化を理解する。	再生、化生、肥大、過形成、異形成、退形成
3	6/23(火)	2	322	・対面授業	組織修復とその異常(2)	尾崎 充彦	実験病理学	細胞増殖や修復過程における組織変化を理解する。	肉芽組織、創傷治癒、異物処理
4	6/30(火)	2	322	・対面授業	循環障害	尾崎 充彦	実験病理学	循環障害における組織変化を理解する。	浮腫、充血、うっ血、出血、血栓、塞栓、梗塞、ショック
5	7/7(火)	2	322	・対面授業	炎症の定義と特徴	岡田 太	実験病理学	炎症の定義や成立過程等を理解する。	急性炎症と慢性炎症, 炎症関連因子
6	7/14(火)	2	322	・対面授業	炎症関連疾患	岡田 太	実験病理学	炎症が起因となる疾患を理解する。	炎症発癌など
7	7/21(火)	2	322	・対面授業	炎症の制御(1)	岡田 太	実験病理学	炎症の制御を理解する。	非ステロイド性抗炎症剤
8	7/28(火)	2	322	・対面授業	炎症の制御(2)	岡田 太	実験病理学	新規の炎症制御法を考える。	新規抗炎症薬

教育グランドデザインとの関連:2、5

※到達目標・授業のキーワードを確認の上、予習・復習してください。

学位授与方針との関連:1

授業のレベル:2

評価:レポート80%, 学修意欲・質問・コメント等20%

実務経験との関連:「無し」

参考書:指定なし。ただし、なるほどなつとく病理学 病態形成の基本的なしくみ(小林止伸, 南山堂2015年)「病態病理学(菊地浩吉, 南山堂2004年)や

人体病理学(石倉 浩 南山堂2002年)が参考になる